



『ペーパー・エアプレーン』  
アリソン・クラウス&ユニオン・ステーション  
(ユニバーサルミュージッククラシック UCCO-6004)

今やブルーグラス界のみならず、米国を代表する女性歌手の一人で、フィドル奏者でもあるアリソン・クラウスが率いる5人組の最新作。彼女のアルバムは、高音質・優秀録音ということで広く知られているが、その点においても、本作は期待を裏切らない佳作。録音とミックスを手掛けているのは、グラミー受賞歴を誇るマイク・シブリー。試聴曲は、『ペーパー・エアプレーン』。

ています。近年のイギリスのクラブ・シーンでは、「ダブステップ (Dubstep)」という音楽が流行しています。ダブステップはダブの影響が色濃いダンス系エレクトロニック・ミュージックで、強烈な重低音が特徴です。僕にとつて2011年を最も象徴するアルバムだったのは、そのダブステップの『ジェイムス・ブレイク』ですが、彼はシングルでジョニ・ミッチェルの「ア・ケース・オブ・ユー」をカバーしています。つまりスタイルとしては弾き語り系シンガー・ソングライターで、音楽的にはゴスペルやソウル、音響的にはダブの影響が強いブルーアイド・ソウルといった感じですよ。

**和田** ダブといっても、リズムじやなくて、音響的な意味でのダブですね。

**渡辺** グレッチェン・バラットは、アコースティック主体のジャズボーカルですが、リズムの組み立て方はヒップホップ的で、ドラムのキックの音が大い。この点において、現代のポピュラー音楽を象徴するアルバムです。アリソン・クラウス&ユニオン・ステーションの『ペーパー・エアプレーン』は、まず単純に言って、優秀録音

盤。アリソン・クラウスは、ご存知のように、全世界のオーディオファイルに知られているコンピレーション『Best Audiophile Voice』のシリーズの常連ですよ。

**和田** 彼女は日本のオーディオファイルにもすごく人気が高いです。ブルーグラスには珍しくSACDが2枚出ていて、モービルフィデリティからも2枚組の高音質アナログ盤が出ています。

**渡辺** このアルバムは昔からアコースティックなアメリカの音楽を聴いてきた人には抵抗なく受け入れられると思いますよ。

**和田** では、いろいろなスピーカーで聴いていきましょう。

ハーベス HL-P3ESR

ボーカルとアコースティック楽器が最高!

**渡辺** この伝統のあるスピーカーで、いちばん良かったのは、やはりアリソン・クラウスですね。

**和田** ハーベスは源流を遡れば1970年頃のBBCのアナウンスモニターにたどり着きます。ミュージックモニターじゃないから、大編成あるいはワイドレンジ録音のコンボやオーケストラなどを大きめの音で聴くっていうのは、ちょっと厳しいね。でも、ボーカルを中心にほぼどの音量で楽しむとこうぶんには、声はとってもナチュラルだしいいよね。

**渡辺** ジェイムス・ブレイクは、低音の量が普通の音楽の常識を超えているから無理がありましたね。

**和田** 多分、今回用意したスピーカーではアルベドくらいじゃないと、あの超低音は出ないんじゃないかと思う。

**渡辺** 『ジェイムス・ブレイク』のダブ的な音響、この重低音をどのスピーカーがいちばん出せるかっていうのが、今日のひとつのポイントだと思っています。

**和田** それは興味があるね。ジェイムス・ブレイクは、ピアノや歌を聴いているぶんにはすごくナチュラルない音だなど思うけれど、あのキックと同じタイミングで聞こえる、フロアタムを叩いているのか、ダビングなのか。これがすごい音圧。やっぱりああいう深く伸びた低音はどうしてもポリウムを上げたくならない、気持ちよく



ハーベス  
HL-P3ESR  
¥252,000 (ペア)

英国の伝統を受け継ぎつつも、新設計110mm中・低域ドライバーユニットや、大型クロスオーバーネットワーク、エンクロージャーチューニング技術などで完成度を高めている。  
■問 エムプラス コンセプト  
TEL 045-845-7639